

2015年(平成27年)6月18日(木曜日)

2

受診したトラックドライバーの4割弱が精密検査の対象——。ヘルスケアネットワーク（OCHIS、武田裕理事長）が2014年度実施した、睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の判定結果で分かった。

SAS検査の受診者を追跡調査したもの。トラックドライバーは男性1万989人、女性262人の計1万1251人が受診した。受診者は13年度のほぼ2倍で、平均年齢が45歳。受診者が急増した要因に

OCHIS■SAS判定結果

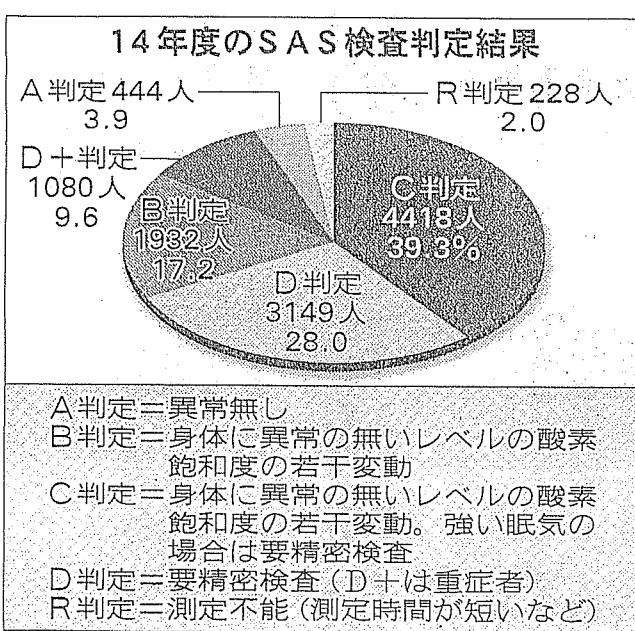
ついで、作本貢子副理事長は「14年3月3日に発生した北陸自動車道の高速バス事故の影響で、危機感を持つ事業者が増えたのではないか」と分析する。脈拍数と動脈血の酸素飽和度を計測するパルスオキシメータによる検査で、「精密検査の対象」と判定されたのは受診者の37・6%に当たる4229人。このうち、1080人（全体の代別に調べたところ、30歳

9・6%）が重症者だった。

「精密検査の対象」と判定された人の割合を年代別にみると、最も高かつたのは60代で51・2%。次いで、50代の46・8%、70代は45・0%、40代38・4%、30代26・5%と、年齢が上がるにつれ症状が悪化する傾向がみられた。

また、体格指数（BMI）が25以上の肥満者も年代別に調べたところ、30歳

運転者の4割弱 要精密検査



踏み込んだ取り組み必要

るようにして欲しい。健康診断とSAS検査の結果を活用した社内での取り組みが重要」とアドバイスする。

その上で「(SASは)本人の気付かないケースが多い病気で、十分な睡眠が得られず、ストレスを抱えてうつ病になってしまふ人もいる。職業ドライバーとして、他の業種と同じではなく、一歩踏み込んだ取り組みが求められる」と呼び掛けている。